

「令和5年度 全国学力・学習状況調査」



赤磐市の状況

令和5年8月 赤磐市教育委員会

令和5年4月18日(火)に、全国学力・学習状況調査が実施されました。(結果の通知は7月下旬に行われました。)

赤磐市の結果とその分析、今後の取組の方向性についてお知らせします。

全国学力・学習状況調査（文部科学省実施の全国調査）について

<目的>

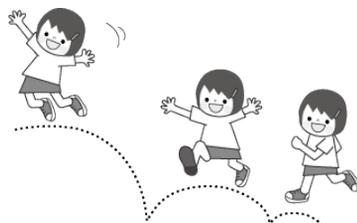
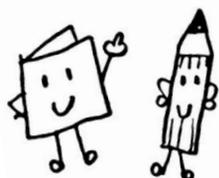
- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

<調査の内容>

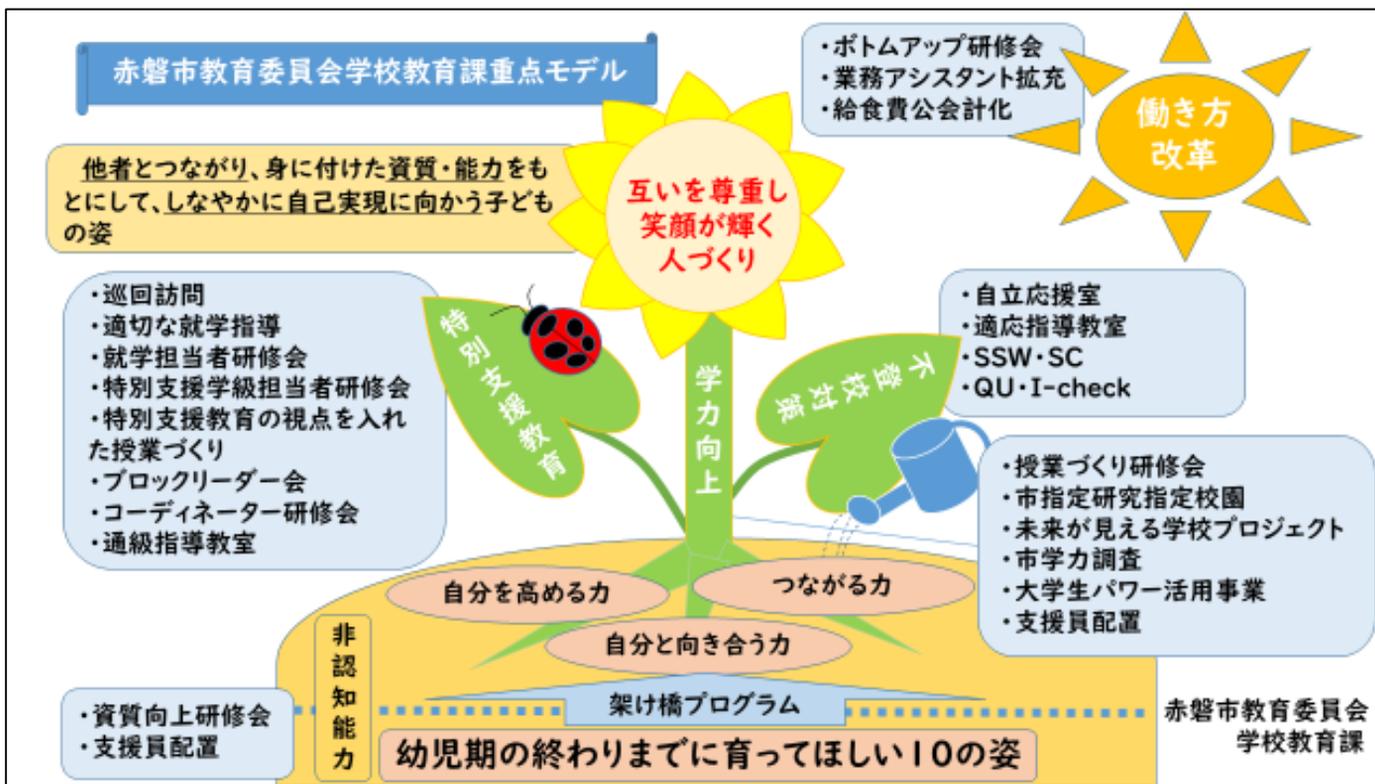
- 児童生徒に対する調査
 - ・教科については、国語、算数・数学、英語（中学校）の3教科について実施
 - ・学習意欲、学習方法、学習環境等に関する質問紙調査
 - ・学習指導要領に示された目標や内容に基づき、調査対象の前学年までの学習内容が出題範囲
- 学校に対する質問紙調査

<調査対象>

- 対象者は、小学校6年生、中学校3年生の生徒
(赤磐市内参加者：小学校6年生 377名、中学校3年生 360名)



赤磐市教育委員会では、「赤磐市教育委員会学校教育課重点モデル」(下図)に示しているとおり、非認知能力を基盤とすることで、学力向上へ向かうものと捉えています。したがって本調査につきましても各教科の学力状況の他、児童生徒質問紙から見ることのできる非認知能力についても分析を行います。



赤磐市 教育振興重点目標 基本理念
「互いを尊重し、笑顔が輝く人づくり」

基本目標
「生きる力をはぐくむ幼稚園教育、学校教育の充実」

赤磐市教育委員会学校教育課では、「基本理念『互いを尊重し、笑顔が輝く人づくり』」を「他者とつながり、身に付けた資質・能力をもとにして、しなやかに自己実現に向かう子どもの姿」と捉え、「学力向上」「不登校対策」「特別支援教育」「働き方改革」の4つの重点を掲げています。

児童生徒の自己実現、自立のためには、確かな資質・能力(学力)を身に付けなければなりません。その中で、多様化する児童生徒にとってよりよい自立につなげていくためには、特別支援教育の視点と不登校の未然防止、不登校対策は欠くことができません。

さらに、目まぐるしく変化する社会にしなやかに対応し、生きぬくためには、「夢をもつ」「あきらめずにやり抜く」「他者と調和を保ち協働できる」といった**非認知能力**が必要であり、この非認知能力が資質・能力(学力)の向上につながると考えています。そこで非認知能力を「**自分を高める力**」(自尊感情・向上心等)「**自分と向き合う力**」(粘り強さ、自制心等)「**つながり合う力**」(協調性等)の3つに整理しました。

非認知能力は就学前の教育から育まれるものであるため、**幼児教育と義務教育との連続性や幼稚園や保育園、こども園と小学校の接続**を大切に考え、取組を行います。

<参考>

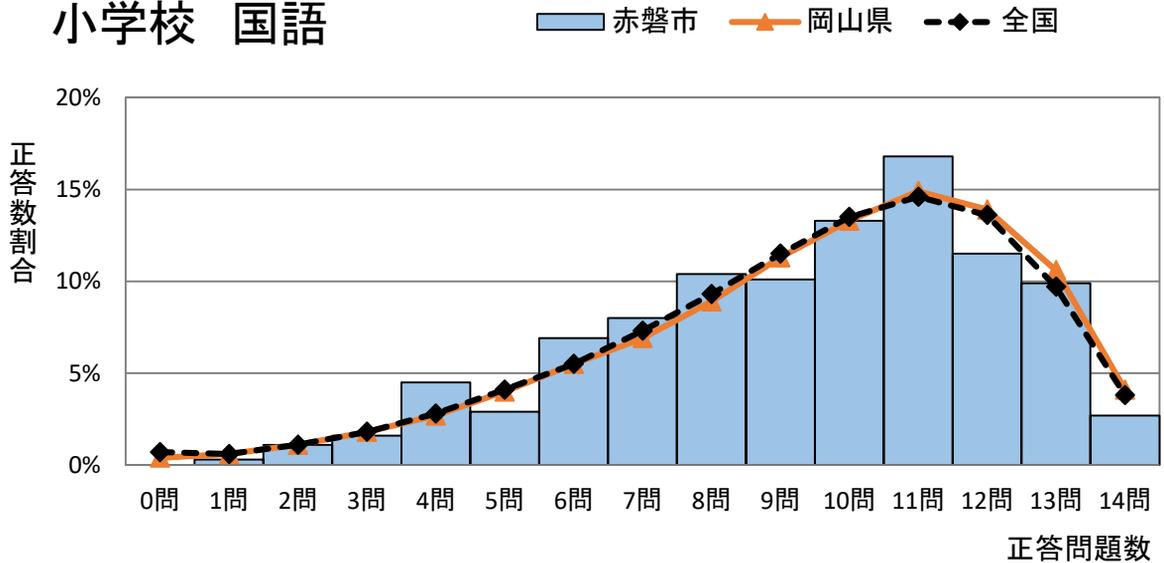
- ・赤磐市教育振興重点目標 赤磐市教育委員会
- ・令和4年度教育施策の概要 岡山県教育委員会
- ・非認知能力レンズで「いいとこ」みっけ!!岡山県教育庁生涯学習課 など

赤磐市 全国学力・学習状況調査の結果

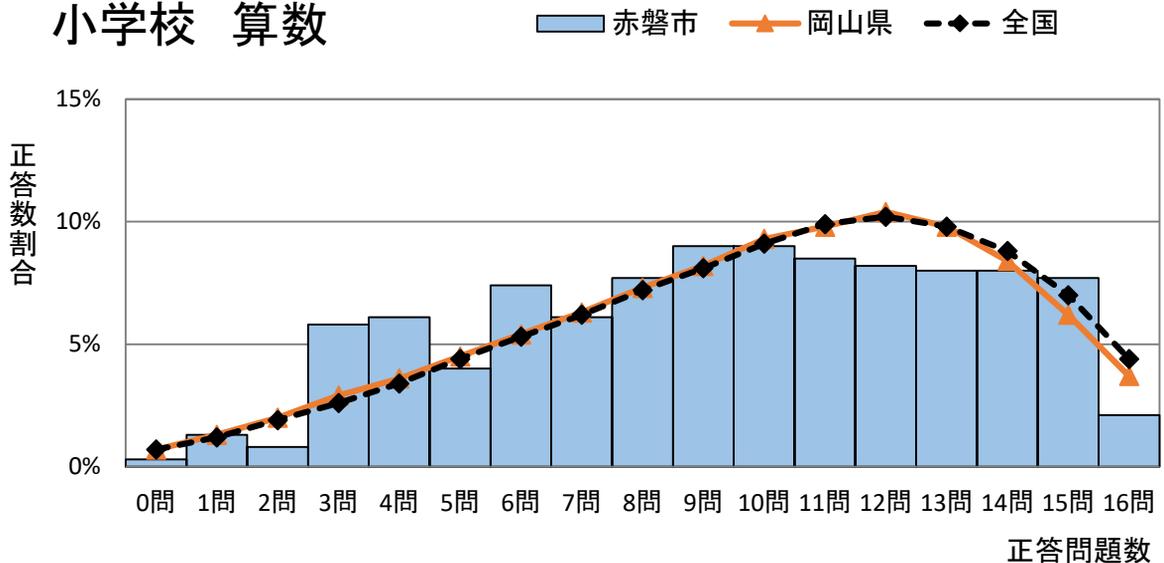
小学校6年生の学力調査結果から

【グラフの見方】
 横軸→正答問題数
 縦軸→児童生徒の正答数の割合
 を示しています。

小学校 国語

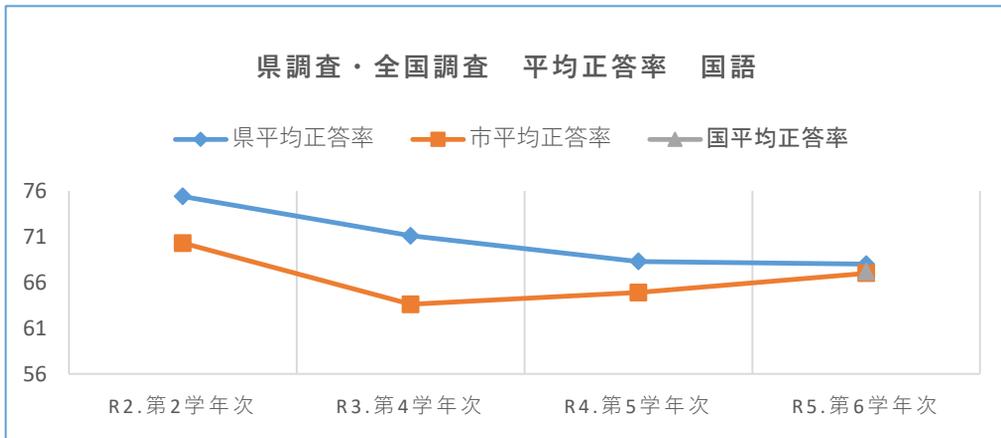


小学校 算数

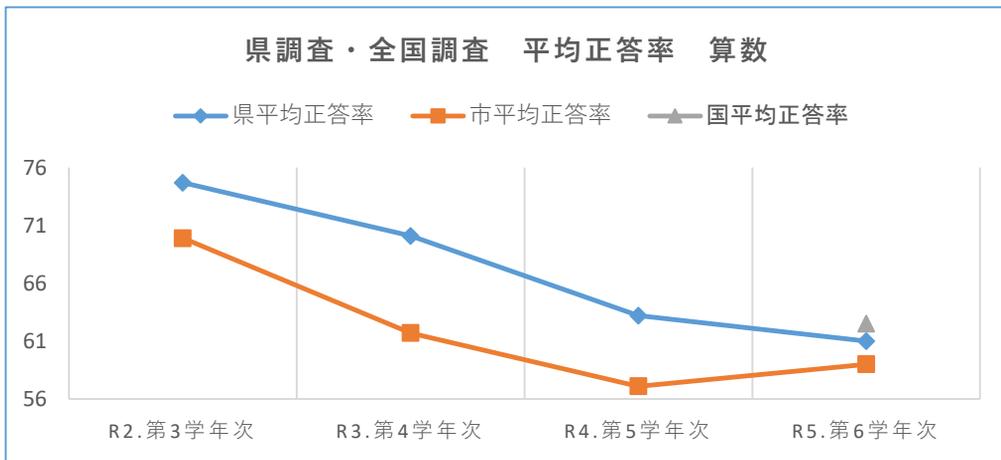


同一集団による経年比較により、改善と課題を明確に

令和5年度6年生における、3年次からの経年変化を岡山県の平均正答率と比較したものです。3年生から5年生までの平均正答率は「岡山県学力・学習状況調査」、6年生の平均正答率は「全国学力・学習状況調査」をそれぞれ用いています。



2018年度入学 (令和5年度6年生)					中央値
国語	R2.第2学年次	R3.第4学年次	R4.第5学年次	R5.第6学年次	R5全国調査
県平均正答率	75.4	71.1	68.3	68	10
市平均正答率	70.3	63.6	64.9	67	10
全国平均正答率				67.2	10



2018年度入学 (令和5年度6年生)					中央値
算数	R2.第3学年次	R3.第4学年次	R4.第5学年次	R5.第6学年次	R5全国調査
県平均正答率	74.7	70.1	63.2	61	10
市平均正答率	69.9	61.7	57.1	59	10
全国平均正答率				62.5	11

学力調査結果の分析【小学校】

国語の概況

- 平均正答率は県と比べて $\Delta 1.0$ ポイント、全国と比べて $\Delta 0.2$ ポイント、中央値は県及び全国と同じく10であり、おおよそ全国平均レベルである。
- 平均正答率については県は年々低下しているが、赤磐市は、5年次、6年次と上昇している。

国語の改善点(○)と課題点(▲)

- 「話すこと聞くこと」の領域では、自分の考えを条件に合わせてまとめる設問について正答率が全国と比べて $+1.9$ ポイントであった。
- ▲「読むこと」の領域については、県や全国の正答率と比べておおよそ $\Delta 2$ ポイントであった。

国語の結果に対する分析と授業改善等のポイント

- 「自分の考えを条件に合わせてまとめる力」の改善については、考えや思いを書いて表現することを大切にする授業が国語科にとどまらず、教科横断的、また、意図的に展開されていることも改善の要因の一つだと考える。
- 「読むこと」の指導に当たっては、児童が文章を読む際に、「どんな語や文に注目したらよいのか」「見つけたい情報はどんなものなのか」といった、明確な目的意識をもって学習に取り組むことができるように、めあての設定や課題把握の工夫を行った授業づくりに取り組む必要がある。
- 4年次の岡山県調査の結果から6年次にかけて平均正答率が右肩上がりの改善傾向を示している。これらは、児童の実態に合わせたきめ細かい個別の支援や、授業改善に向けた努力の成果だと考える。

算数の概況

- 平均正答率は県と比べて $\Delta 2.0$ ポイント、全国と比べて $\Delta 3.5$ ポイント、中央値は県とは同じであるが全国と比べて低い状態である。
- 平均正答率は5年次と比べて上昇しており、県や全国との差は縮まっている。

算数の改善点(○)と課題点(▲)

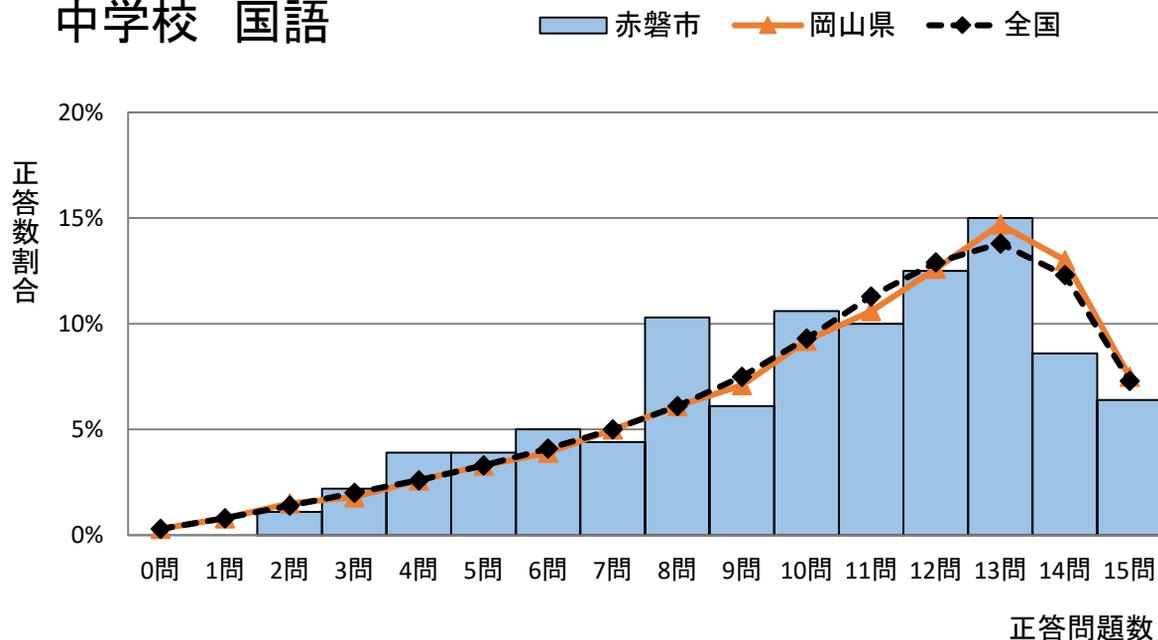
- 「数と計算」の領域では、おおよそ県や全国と正答率が同じくらいであり、5年生次の岡山県調査の結果と比べると改善傾向にある。
- ▲「図形」と「データの活用」の領域において、県や全国の正答率を下回る設問が多い。

算数の結果に対する分析と授業改善等のポイント

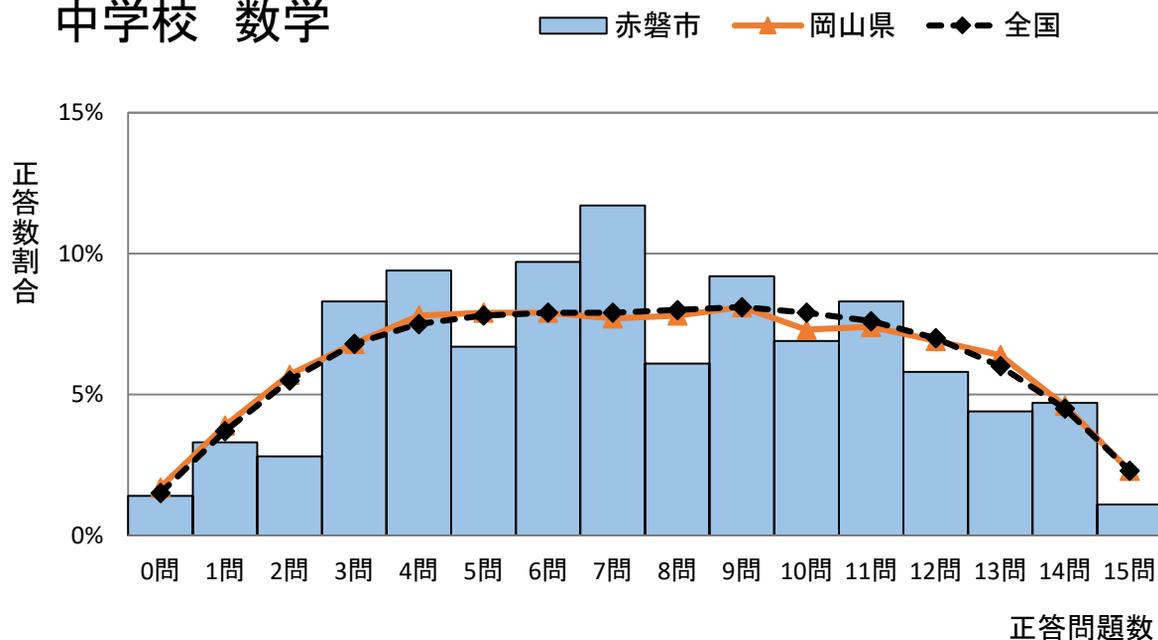
- 「図形」の領域では図形の定義や意味、性質を理解し、辺や面積の関係など、自分の言葉で説明できるような授業をつくる必要がある。
- 「データの活用」では、問題文で問われていることを明確に把握し、資料から課題にあった数を読み取ることができるような課題把握の工夫等を授業で行う必要がある。
- 5年次と比べ、県や全国との平均正答率の差が縮まってきているのは、授業改善等の成果だと考える。
- 3ページの正答数を示したグラフから平均正答率が40%以下の児童が多数いることが見て取れる。各校において、実態に即した個別の支援の手立てが望まれる。

中学校3年生の学力調査結果から

中学校 国語

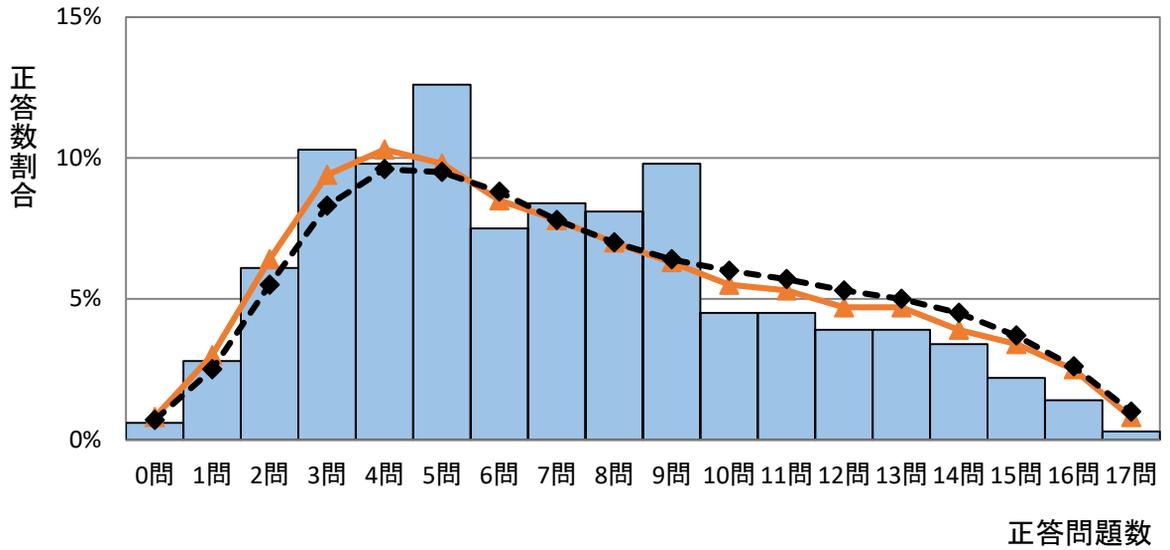


中学校 数学



中学校 英語

赤磐市 岡山県 全国



同一集団による経年比較により、改善と課題を明確に

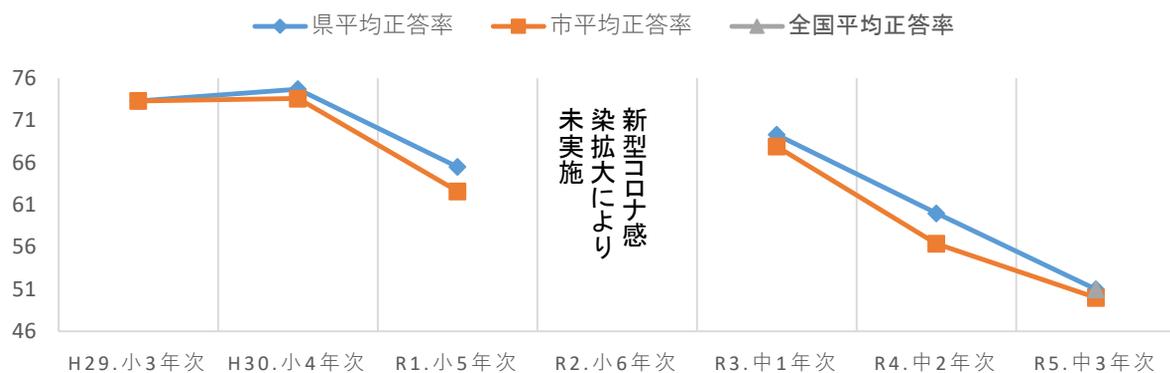
令和5年度中学3年生の小学3年次からの経年変化を岡山県の平均正答率と比較したものです。3年生から5年生、中1、中2の平均正答率は「岡山県学力・学習状況調査」、中学3年生の平均正答率は「全国学力・学習状況調査」をそれぞれ用いています。



2015年度入学 (令和5年度中学3年生)							
国語	H29.小3年次	H30.小4年次	R1.小5年次	R2.小6年次	R3.中1年次	R4.中2年次	R5.中3年次
県平均正答率	77.1	68.7	72.1		74.7	67.9	70
市平均正答率	76.5	68.5	71.6		73.8	65.5	68
全国平均正答率							69.8

中央値	
R5全国調査	
岡山県	11
赤磐市	11
全国	11

県調査・全国調査 平均正答率 算数・数学



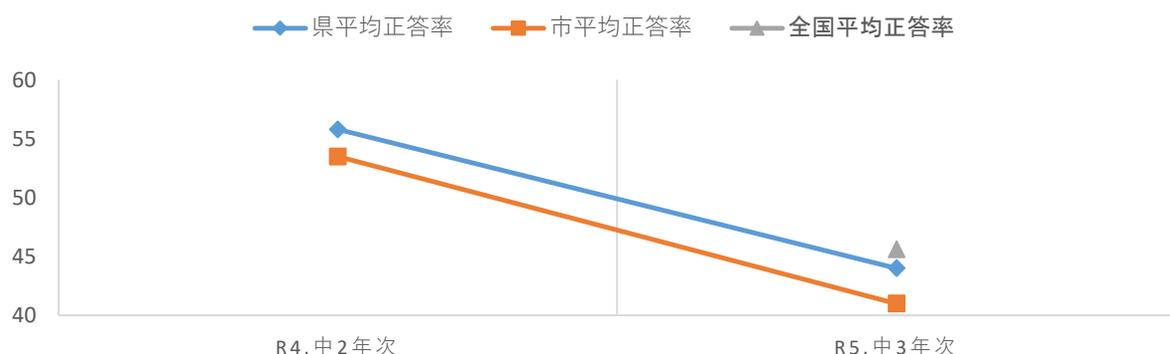
2015年度入学 令和5年度中学3年生

算数・数学	H29.小3年次	H30.小4年次	R1.小5年次	R2.小6年次	R3.中1年次	R4.中2年次	R5.中3年次
県平均正答率	73.3	74.7	65.5		69.3	60	51
市平均正答率	73.3	73.6	62.6		67.9	56.4	50
全国平均正答率							51

中央値

R5全国調査	
岡山県	7
赤磐市	8
全国	8

県調査・全国調査 平均正答率 英語



2015年度入学 令和5年度中学3年生

英語	R4.中2年次	R5.中3年次
県平均正答率	55.8	44
市平均正答率	53.5	41
全国平均正答率		45.6

中央値

R5全国調査	
岡山県	7
赤磐市	7
全国	7

学力調査結果の分析【中学校】

国語の概況

- ・平均正答率は県と比べて $\Delta 2.0$ ポイント、全国と比べて $\Delta 1.8$ ポイント、中央値は県及び全国と同じく11である。
- ・平均正答率は中学2年次と比べるとわずかながら上昇している。

国語の改善点(○)と課題点(▲)

- 「話すこと聞くこと」の領域では、目的に沿って自分の考えをまとめる設問について正答率が県と比べて $+1.5$ ポイント、全国と比べて $+1.9$ ポイントであった。
- ▲「読むこと」の領域については、県や全国の正答率と比べておおよそ $\Delta 5$ ポイント～ $\Delta 7$ ポイントであった。

国語の結果に対する分析と授業改善等のポイント

- ・「目的に沿って自分の考えをまとめる力」の改善については、考えを書いて表現することを大切にする授業が国語科にとどまらず、教科横断的、また、意図的に展開されていることも改善の要因の一つだと考える。
- ・「読むこと」の指導に当たっては、単元や本時で「何ができたらよいのか」を明確にし、生徒が目的意識をもった「読む活動」を設定する必要があり、そのために、めあての設定や課題把握の工夫を行った授業づくりに取り組む必要がある。
- ・中央値が全国や県と等しい状況にあって、平均正答率が低いことから、一定数、学習内容を取りこぼしている生徒がいることが見て取ることができる。各校においては個に応じた支援の在り方を検討する必要がある。

数学の概況

- ・平均正答率は県と比べて $\Delta 1.0$ ポイント、全国と比べて $\Delta 1.0$ ポイント、中央値は県や全国と比べて低い状態である。
- ・中学2年次と比べて平均正答率の県との差は縮まっている。

数学の改善点(○)と課題点(▲)

- 「数と計算」の領域の多くの設問で県や全国の正答率を上回っている。
- ▲「図形」の領域において、県や全国の正答率を下回る設問が多い。

数学の結果に対する分析と授業改善等のポイント

- ・「図形」の領域では「知識・技能」を図る設問の正答率が低い。図形の定義や意味、性質を理解し、自分の言葉で説明できるような授業をつくる必要がある。
- ・中学2年次と比べ、県や全国との平均正答率の差が縮まってきているのは、授業改善等の成果だと考える。
- ・中央値が低く、平均正答率も1ポイント低いことから、一定数、学習内容を取りこぼしている生徒がいることが見て取ることができる。各校において授業改善や個に応じた支援の在り方を検討する必要がある。

英語の概況

- ・平均正答率は県と比べて△3.0ポイント、全国と比べて△4.6ポイント、中央値は県及び全国と同じく7である。
- ・平均正答率は中学2年次と比べるとわずかながら県との差が開いている。

英語の改善点(○)と課題点(▲)

- 「聞くこと」の領域については、県や全国の正答率を上回っている設問もある。
- ▲「読むこと」の領域については、多くの設問で県や全国の正答率を下回っている。

英語の結果に対する分析と授業改善等のポイント

- ・情報を正確に読み取るためには、音声や語彙、表現、文法や言語の働きなどの基礎基本を定着させることを通して、活用できる知識にしていく必要がある。
- ・語彙や表現、文法の基礎基本の学習を家庭でも取り組み、授業で生かすといったように、授業と家庭学習との関連を図り、生徒に「できた。」「分かった。」と実感できる授業を展開する。
- ・個々のつまずきの分析を行い、焦点化した手立てを検討する必要がある。

小学校・中学校共通の改善点と授業改善の重点

<改善点>

- ・中学校、小学校ともに国語の「一定の条件にしたがって、自分の考えや意見をまとめる力」について改善が見られている。
- ・数学や算数では「数と計算」の領域で改善が見られている。
- ・国語と算数・数学においては、県や全国との平均正答率の差が縮まっている。
- ・改善の要因としては、課題意識を明確にもって学校組織として、授業改善を行ってきたことと同時に、学級担任、教科担任、支援員等と連携を密にして個に応じた支援を行う努力をしてきた結果だと考える。

<授業改善の重点>

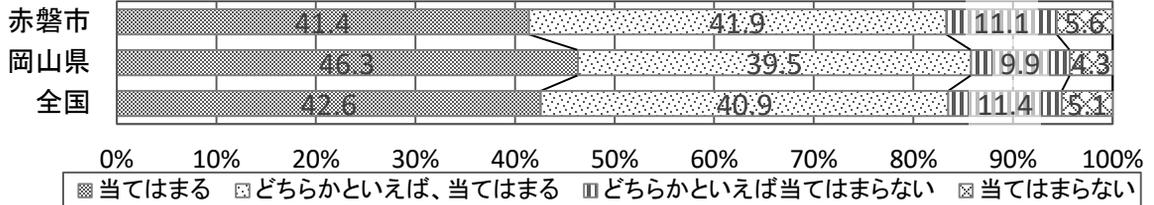
- ・中学校、小学校ともに算数・数学「図形」の領域で課題が見られた。図形の定義や意味について、言葉で筋道を立てて説明したり、お互いの考えを伝え合ったりするなど、対話的な授業を通して、活用できる知識として定着すると考える。
- ・国語の「読むこと」の領域について、小学校、中学校ともに課題が見られた。授業改善に当たっては、学習指導要領に立ち返り、育成する資質・能力を明確にし、児童生徒が「何ができたらよいのか（何が読み取れたらよいのか）」分かるような手立てを行う必要がある。
- ・個に応じた支援をさらに充実させるための手立てとして「フィードバック」を適切に行うことを意識した授業を行う。授業の中で、児童生徒個別にそれぞれのできていることとできていないことへの声掛けを行うとともに、できるようになるための方法を助言することで、児童生徒が自分の課題を理解しながらめあてを達成させることができるようになる。このような指導を可能とするために、児童生徒の実態に沿った単元教材研究を単元を通して行う必要がある。

小学校6年生の学習状況調査結果から

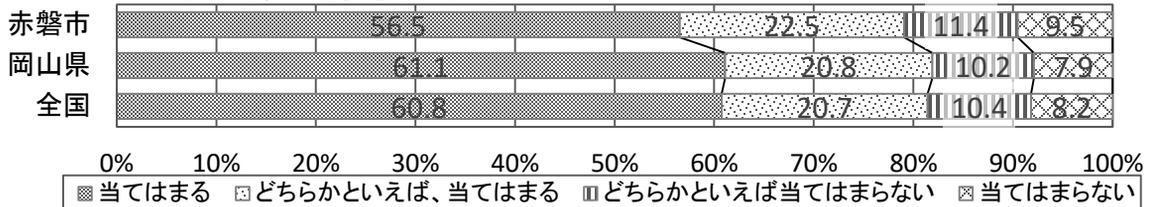
「自分を高める力」

自尊心や向上心など、よりよい自分に向かおうとする力

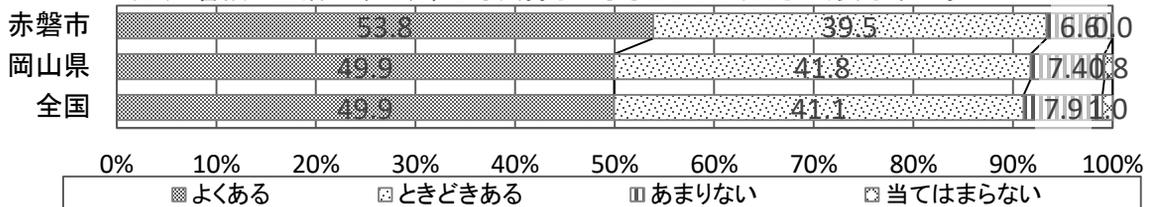
(4) 自分には、よいところがあると思いますか。



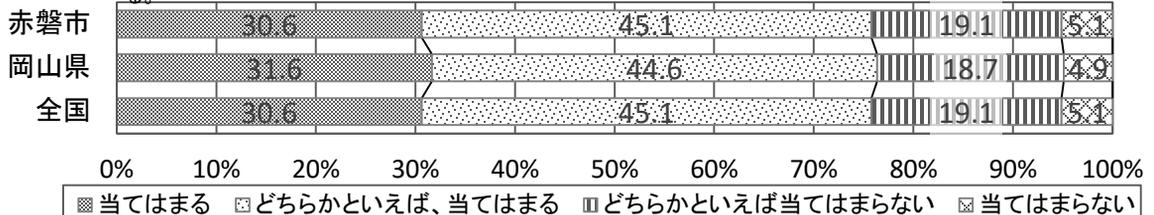
(7) 将来の夢や目標をもっている。



(15) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。



(41) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。



(46) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つ。



(54) 算数の授業で学習したことは将来、社会に出た時に役立つ。

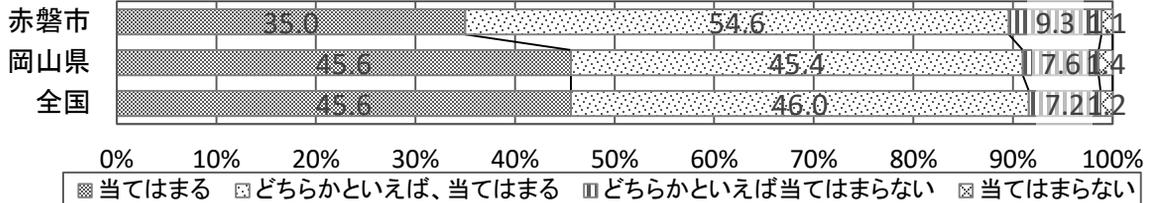


小学校6年生の学習状況調査結果から

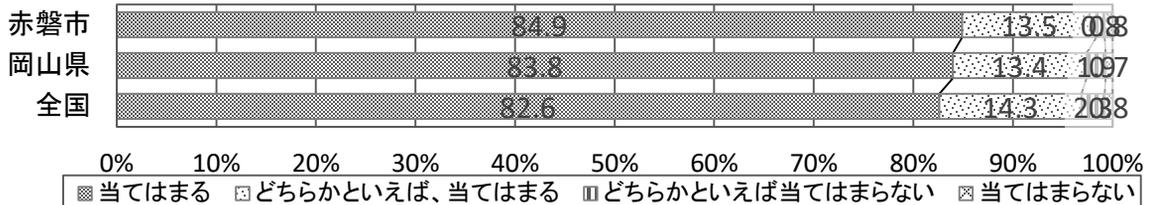
「自分と向き合う力」

粘り強さや自制心など、自分を調整する力

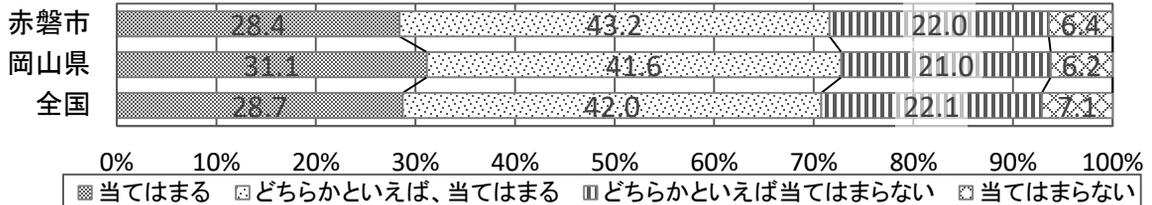
(8) 人が困っている時は進んで助けている。



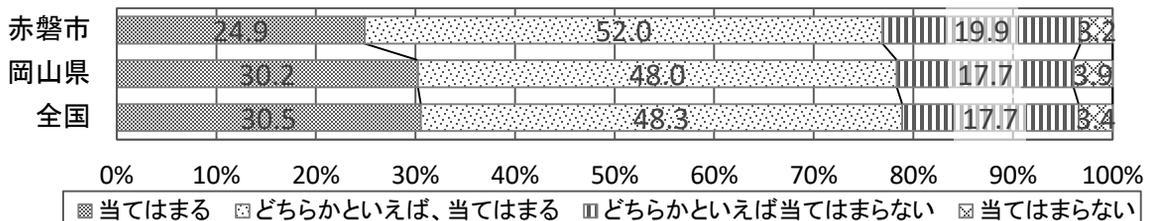
(9) いじめはどんな理由あってもいけないことだと思う。



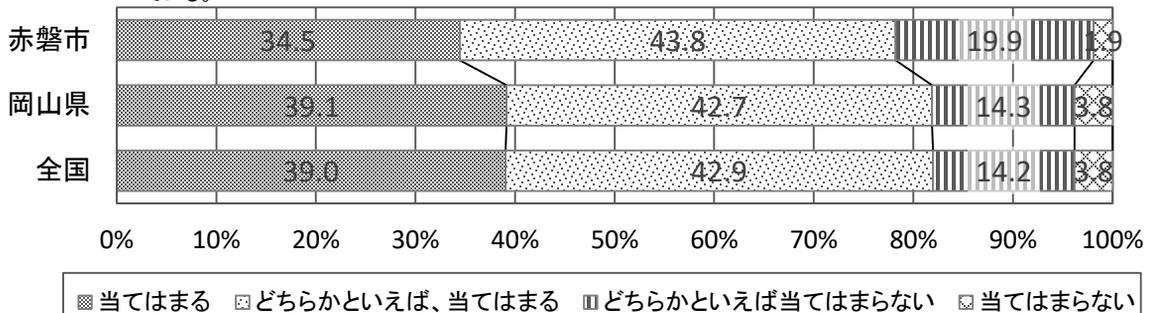
(16) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。



(33) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ。



(37) 学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。

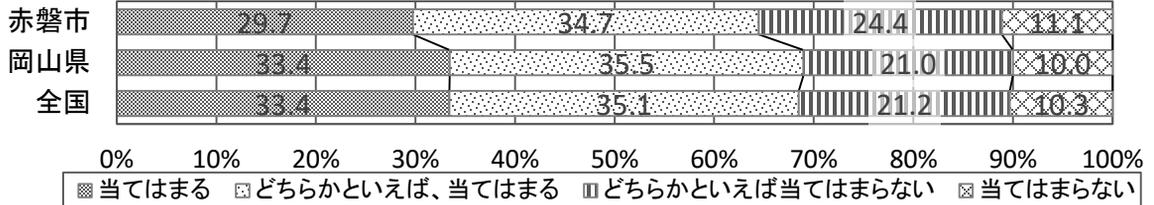


小学校6年生の学習状況調査結果から

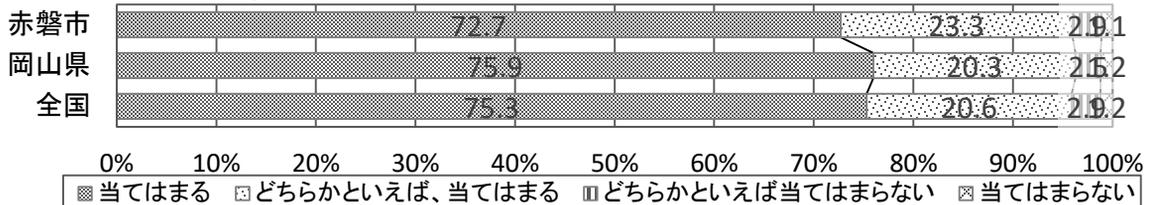
「他者とつながり合う力」

共感性や協調性など他者と協調・協働する力

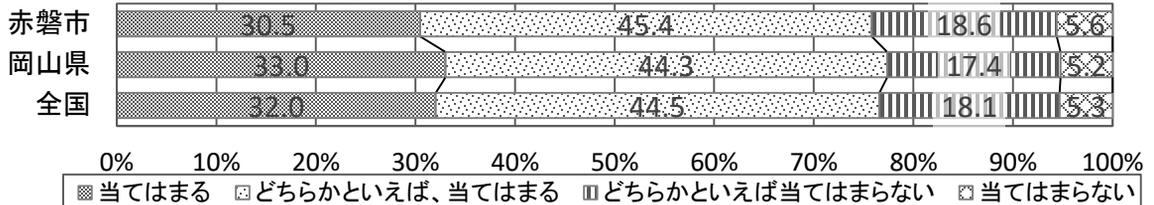
(10) 困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。



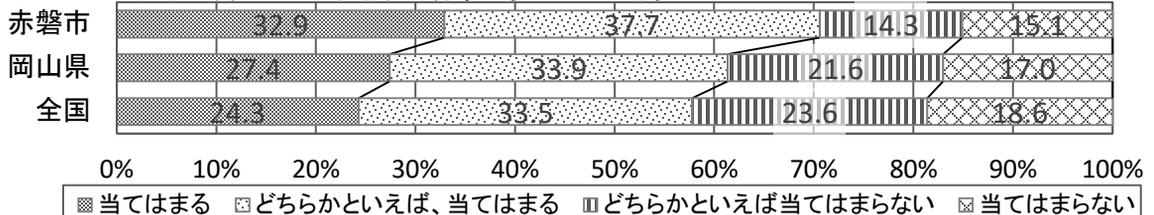
(11) 人の役に立つ人間になりたいと思う。



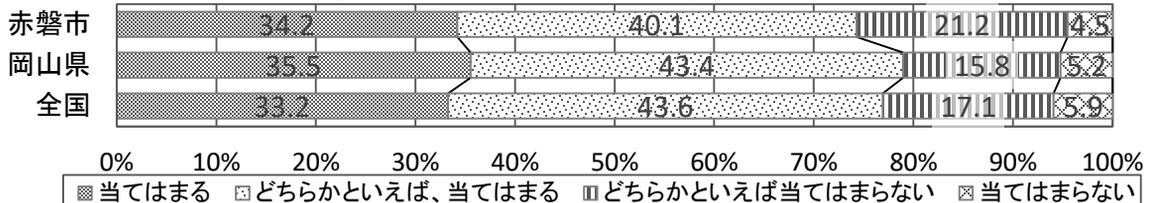
(13) 自分と違う意見について考えるのは楽しい。



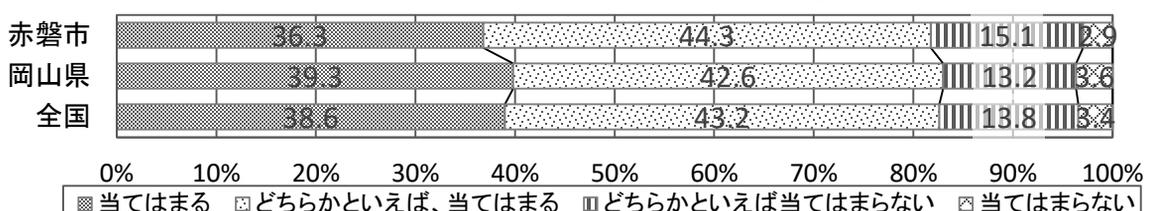
(25) 今住んでいる地域の行事に参加している。



(26) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。



(36) 学級の友達の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。

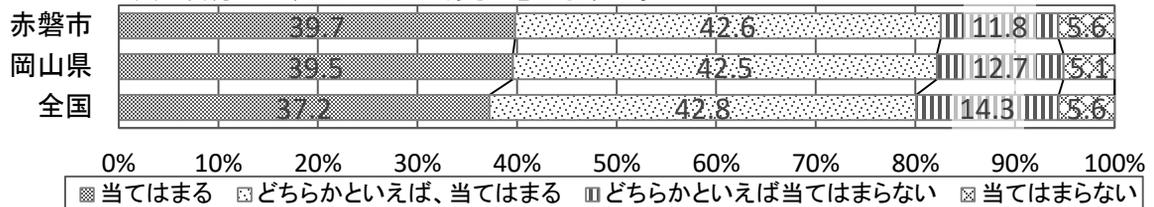


中学校3年生の学習状況調査結果から

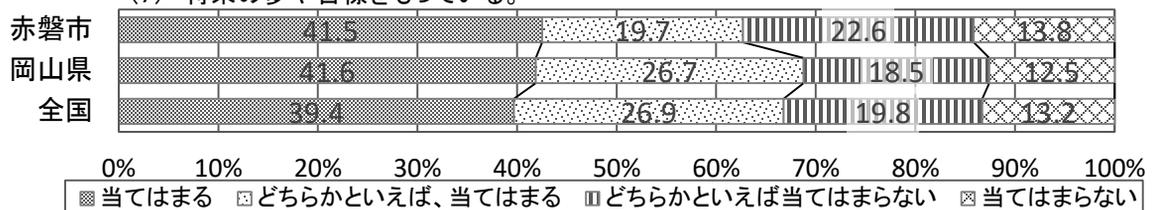
「自分を高める力」

自尊心や向上心など、よりよい自分に向かおうとする力

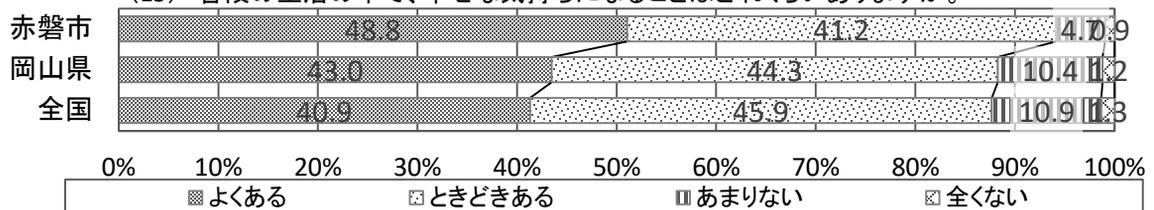
(4) 自分には、よいところがあると思いますか。



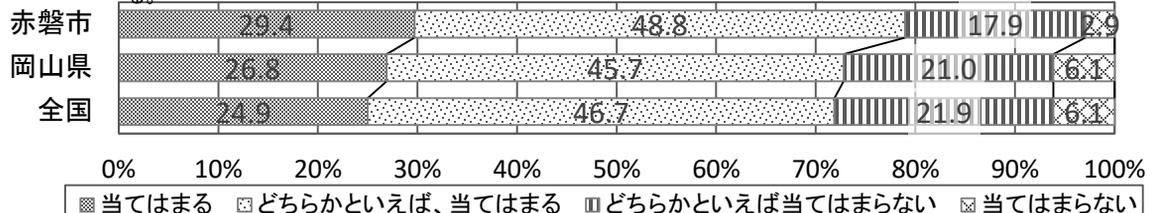
(7) 将来の夢や目標を持っている。



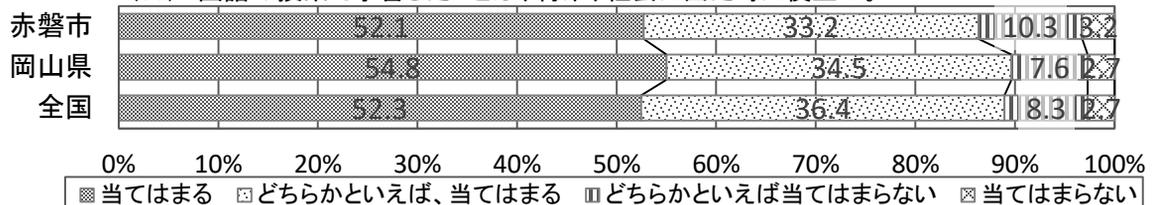
(15) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。



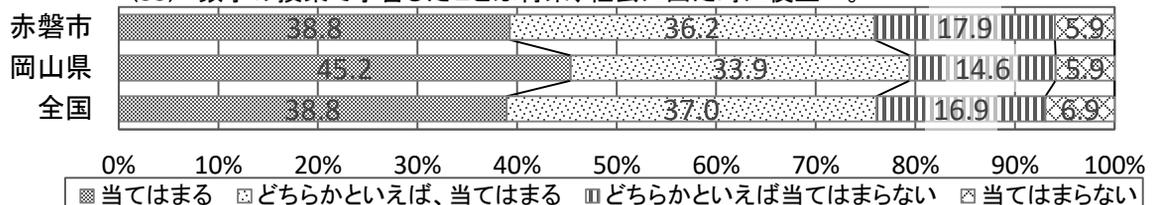
(45) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。



(50) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つ。



(58) 数学の授業で学習したことは将来、社会に出た時に役立つ。

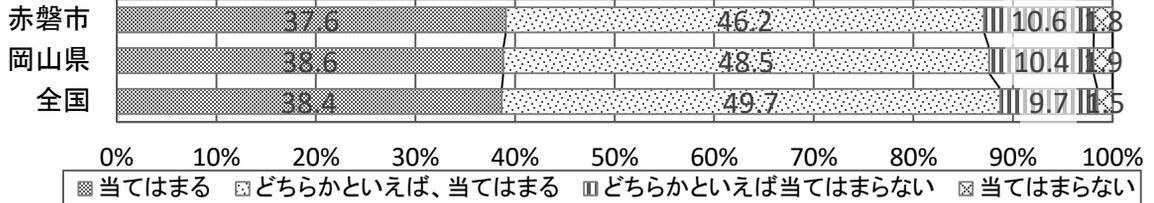


中学校3年生の学習状況調査結果から

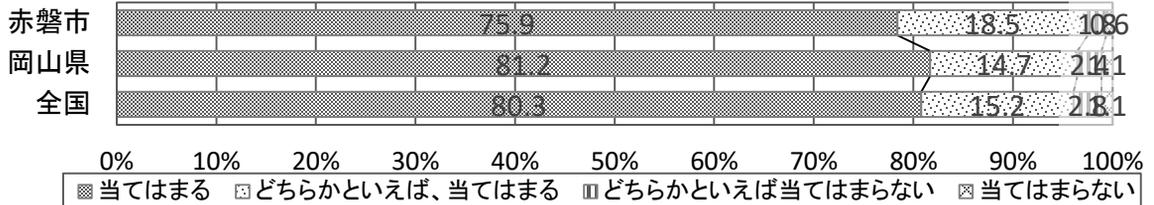
「自分と向き合う力」

粘り強さや自制心など、自分を調整する力

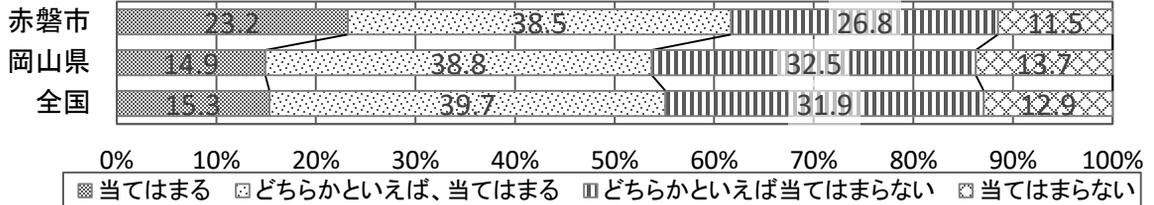
(8) 人が困っている時は進んで助けている。



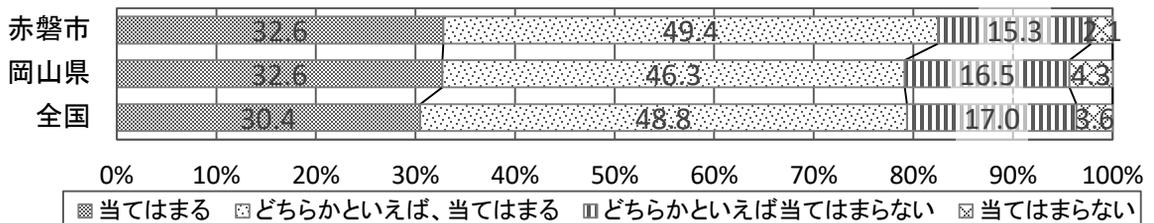
(9) いじめはどんな理由あってもいけないことだと思う。



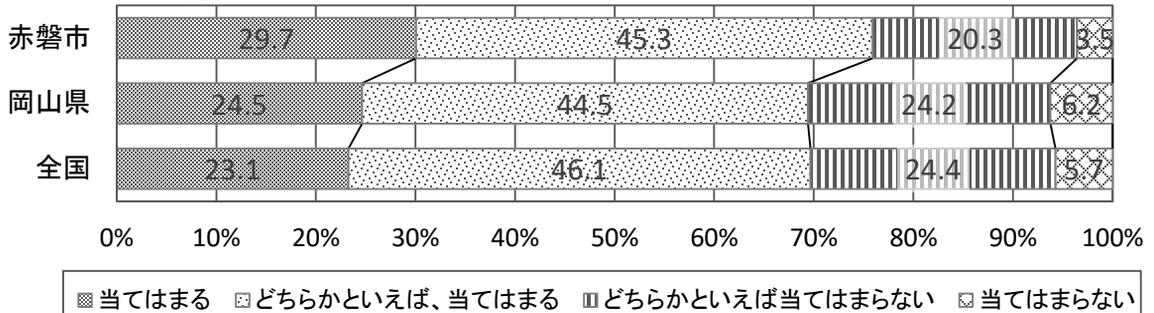
(16) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。



(37) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ。



(41) 学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。

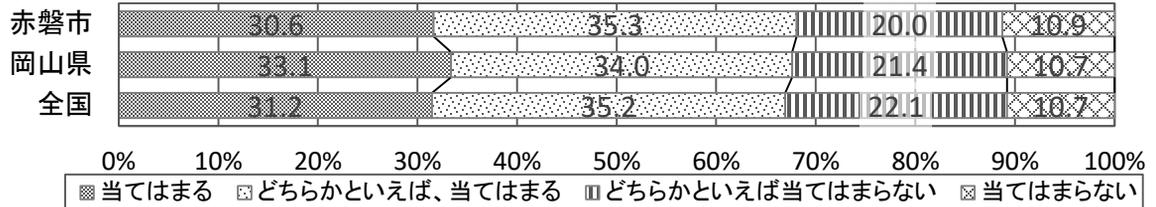


中学校3年生の学習状況調査結果から

「他者とつながり合う力」

共感性や協調性など他者と協調・協働する力

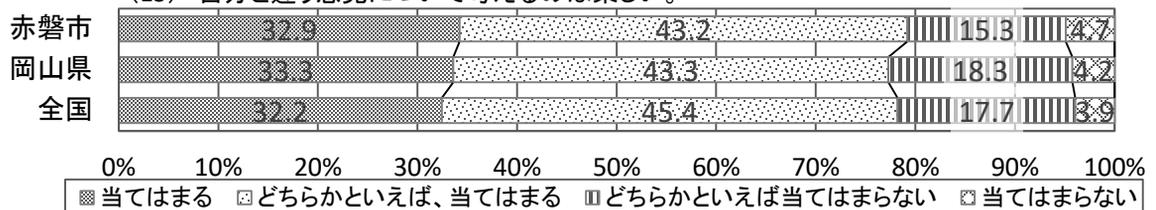
(10) 困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。



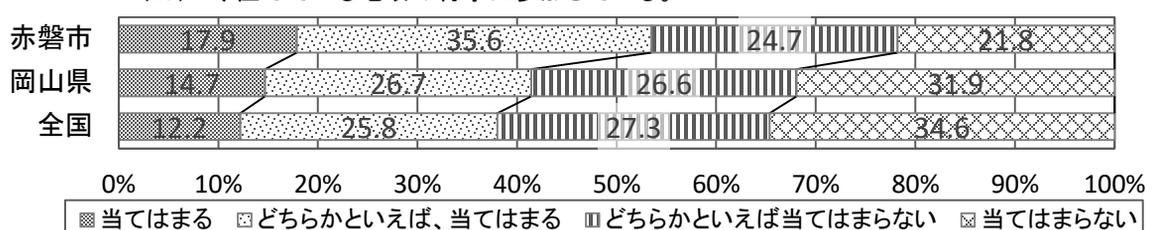
(11) 人の役に立つ人間になりたいと思う。



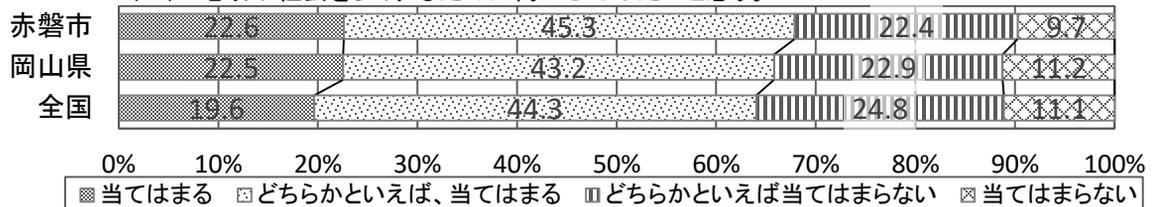
(13) 自分と違う意見について考えるのは楽しい。



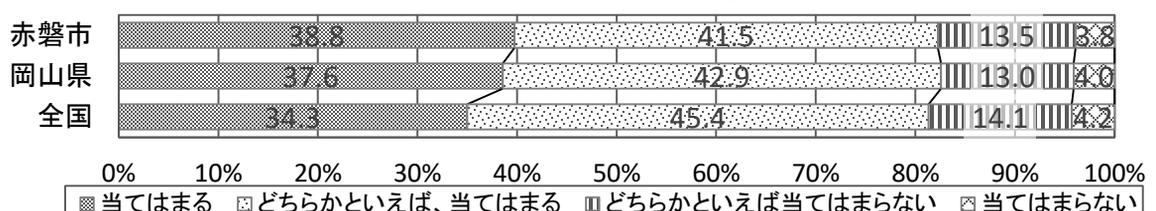
(29) 今住んでいる地域の行事に参加している。



(30) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。



(40) 学級の友達の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。



非認知能力を育成し生きる力と学力の基盤づくり

学習状況調査結果の分析

非認知能力を育成することで学力も向上することは研究(※1)でも示されているところです。また、非認知能力は個々の生きる力にとっても重要な能力です。児童生徒の質問紙から状況を把握、分析します。

小学校の結果「自分を高める力」

- ・「自分には、よいところがあると思いますか。」「将来の夢や目標をもっている」という質問に対し、肯定的な回答の割合が県と比べてわずかに低い。
- ・「国語(算数)の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つ。」という質問に対する回答は県や全国と比べて、肯定的な回答の割合が高い。

小学校の結果「自分と向き合う力」

- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。」という質問に対しては、県や全国と比べて肯定的な回答の割合が高い。
- ・「人が困っている時は進んで助けている。」という質問に対する「当てはまる」という回答が県や全国と比べて10ポイント低い。
- ・学習への取り組み方に対する質問項目(16)(33)(37)についても県や全国と比べて肯定的な回答の割合が低い。

小学校の結果「他者とつながり合う力」

- ・「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。」という質問に対して県や全国と比べると5ポイント程度低い。
- ・「今住んでいる地域の行事に参加している。」という質問に対して県や全国と比べると10ポイント程度高い。

小学校の結果に対する分析

- ・児童質問紙「先生はあなたのよいところを認めてくれる。」については96.8%が肯定的な回答をしており、県や全国を大きく上回っている。また、「先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うか。」という質問には96.1%が肯定的な回答をしておりこちらも県や全国を上回っている。このように、教師と児童との信頼関係が基盤となり、学力の改善に結び付いていると考えられる。しかしながら、「自分には、よいところがあると思いますか。」「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。」という質問に対する肯定的な割合は比較的低くなっている。教師の児童への称揚、承認が児童に「自分のよいところ」として受け止められているとは限らないと見取ることができる。児童の学習の成果、過程をより個に合わせて、具体的にフィードバックしていく取組を通して、「良さ」を伝えることが重要であると考えます。
- ・教育活動の中に、児童に任せ、児童自身で自己決定を繰り返しながら取り組めるような活動を仕組むことで、「自らの課題を解決する力」や「学びを他の場面で生かす力」が育成されることが考えられる。
- ・地域の行事を大切に、地域とのつながりを感じられることは、地域で児童を育む上で重要なことであり、赤磐市としてとても誇れることだと考えている。

中学校の結果「自分を高める力」

- ・「自分には、よいところがあると思いますか。」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」という質問に対し、肯定的な回答の割合は県や全国を上回っている。
- ・「学級活動における学級での話し合いを生かして、いま、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。」という質問に対し、肯定的な回答の割合は県や全国を5ポイント以上上回っている。
- ・「将来の夢や目標をもっている。」という質問については、「当てはまる」という回答の割合は県や全国を上回っているものの、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」という否定的な回答の割合も県や全国を上回っており、両極化しているように見て取ることができる。
- ・「国語（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つ。」という質問に対する回答は県や全国と比べて、肯定的な回答の割合が低い。

中学校の結果「自分と向き合う力」

- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ。」「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。」という質問について肯定的な回答の割合は県や全国を上回っている。

中学校の結果「他者とつながり合う力」

- ・「今住んでいる地域の行事に参加している。」という質問に対して県や全国と比べると10ポイント以上高く、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。」という質問に対しても肯定的な回答の割合が県や全国を上回っている。

中学校の結果に対する分析

- ・生徒質問紙の結果から、生徒が自分で考えて行動したり、自分の学びを決定したりできていると推察することができる。各教科だけではなく、生徒会活動や学校行事の様々な場面で、生徒に委ねて見守り、主体的な取組を大切にしている各校の取組の成果が表れているのだと考える。※2岡山型PBLの推進やカリキュラムマネジメントにより、生徒の学びが主体的なものとなることが期待される。
- ・「将来の夢や目標をもっている。」という質問では、二極化が見られており、40%弱の生徒が、何らかの要因により、「夢や目標をもつことができない」状態にあると言える。学力不振や人間関係等、様々な要因は考えられ、各校においては、個に焦点化して、その分析を行う必要がある。
また、手立ての一つとして、協働的な学びを効果的に取り入れることが考えられる。赤磐市の生徒は、「友達関係に満足していますか。」という質問に対し、肯定的な回答の割合が高く、また、友達と共に学ぶことについても肯定的にとらえている。そのことから、生徒同士の協働的な学び合いを通して互いが支え合いながらフォローが可能な部分もあると考える。
- ・地域の行事を大切に、地域とのつながりを感じれることは、地域で生徒を育む上で重要なことであり、赤磐市としてとても誇れることだと考えている。

教育委員会の取組

教育委員会として、改善点や課題点をもとに、次のような事業、取組を行い、児童生徒の非認知能力を基盤として学力の向上を図る。

<学校改革・授業改善>

- ・赤磐市研究指定校事業 市内4校
各校の主体的な研究をサポートし、成果を幼稚園、小中学校共有する。
- ・各種授業研修会 年間10回
授業づくり研修会、ICT授業活用研修会、特別支援教育授業づくり研修会を開催し、教員の指導力向上を図る。
- ・中学校ブロック研修会
中学校ブロックごとに児童生徒や学習の状況を共有し、指導に生かす。
- ・架け橋プログラムの推進（幼保こ小連携）
- ・指導訪問
指導主事が各校へ訪問し、授業についての指導助言を行う。

<個に応じた支援>

- ・各種人員配置により、落ち着いた学習環境づくり・個に応じた指導を充実させ、学力向上を図る。
 - 常勤講師（市費）による35人以下学級の実現
 - 非常勤講師、学習支援員、特別支援教育支援員による個別の学習支援
 - 大学生による学習支援ボランティア
 - 補充学習支援員により、長期休業中や放課後、朝の活動等で学習支援を行う。

<未来がみえる学校プロジェクト>

- ・桜が丘中学校をパイロット校として新しい学校の学びの形を研究する。

<コミュニティ・スクール>

- ・地域と学校とが協働して子どもたちの成長を支える仕組みを構築する。

参考

※1・耳塚寛明(2021)「学力格差への処方箋」勁草書房

※2・岡山型PBLガイドブック(2023)岡山県教育委員会

- ・内閣府政策統括官(平成30年度)「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」
- ・ジョン・ハッティ(2017)「学習に何が最も効果的か メタ分析による学習の可視化」あいり出版
- ・ジョン・ハッティ / シャーリー・クラーク(2023)「教育の効果:フィードバック編」法律文化社
- ・中山芳一(2020)「自分と相手の非認知能力を伸ばすコツ」東京書籍
- ・小学校学習指導要領 中学校学習指導要領
- ・国立教育政策研究所「令和5年度全国学力・学習状況調査 解説資料」

※2「岡山型PBL」・・・PBLの考え方を踏まえ、学習内容に応じて「自己決定の場を設ける」「振り返りを重視する」「地域の多様な『人・もの・こと』と関わる」3点を大切にするとともに、「夢育」で重視している非認知能力の育成も意識しながら、各教科等や総合的な学習の時間、特別活動の目標に示す、資質・能力を身につける学習方法です。

PBL(Project Based Learning)・・・児童生徒が自ら課題を見つけ、その課題を自ら解決する過程を通して、課題解決に必要な資質・能力を身に付ける学習方法のことで、「課題解決学習」ともいわれる。